

次期総合計画の策定に係る各種審議会や委員会でいただいた御意見の概要

1 会の名称

平成 29 年度第 1 回沿岸広域振興圏 大船渡地区地域連携懇談会

2 県側出席者

沿岸広域振興局
政策地域部政策推進室

3 開催日時

平成 30 年 1 月 18 日（木）13：30～15：30

4 主な御意見の概要

分野	主な発言内容
1 人口減少	(1) 人口減少については、若者定着のまちづくりが重要である。仕事がないと帰って来れない。雇用の拡大が重要である。 (2) 人口減少は切実な問題だが、行政も住民も危機意識が低い。人中心の政策をして欲しい。 (3) 結婚対策のため「働き方改革」を進めて欲しい。 (4) 震災は一つのチャンスである。東京からUターンし、支援応援を貰い、NPOを立ち上げることができた。皆が応援してくれるので、チャレンジできる地域となっている。震災前であれば起業は出来なかった。 (5) 移住者に対する対応が出来ていない。空き家の活用が出来ていない。スピード感がなく、移住者のタイミングを逃している。ハードの整備が必要である。 (6) 若者は、ソフトの仕事をしたいと思っている。(岩手では)ソフトに金を出す文化がない。コーディネート、コンサル、デザインなど。若者が戻ってくるためのキーワードだ。 (7) 教育、医療の出来ない地域は減んでいく。これをしっかり確保すること。
2 復旧・復興	(1) 我々が経験したことをもとに、防災教育をしっかり行って欲しい。 (2) 復興で、国から金をやるから、と言われて、様々な事業を行っているが、運営するのは地元であることを意識していない結果、大変苦勞している。自分たちのことを自分たちで、身の丈にあった対応することが重要である。住民が苦勞しないよう対応することが必要である。
3 産業振興全般	(1) 先日、成人式で市長が激励していたが、今だから起業できると言っていた。裏を返せば、そもそも地域には、起業の土壌がないということだ。
4 観光	(1) 震災をコンテンツとして売り出せないか。人の死にかかわっているため、扱いづらい面もあると思うが、インドネシアでは、津波のコンテンツを近隣国へ売り出している。各自治体だけでやるのではなく、広域で連携して行う必要がある。

	<p>(2) 外から来て見て、三陸海岸は本当に素晴らしいと思う。地元の方は、岩手の湘南、とはにかみながら照れて言うが、何故もっと誇らしく言わないのか。気仙川は、奥入瀬よりも素晴らしい。恵まれた資源を過小評価しているのではないか。</p> <p>(3) 防災教育で人を呼び込み、民泊などと合わせてはどうか。</p>
5 農林業	<p>(1) 農地は復旧したが、販路や販売に課題がある。</p> <p>(2) 農業法人として人集めが必要である。募集しているが、特に若者の確保が課題である。</p> <p>(3) 農業改良普及所の職員にも応援してもらっているが、マンパワーが足りない。</p> <p>(4) 普及所の職員の人事異動のサイクルが早い。農業普及は、人と人のかかわりが重要で、そのためには5年はいて欲しい。</p> <p>(5) 県農業大学や地元の高校(大船渡東高校等)との連携も重要。生徒の募集や地域との連携体制づくりに力を入れてもらいたい。</p>
6 雇用・人材育成	<p>(1) 地域に足りないのは、コーディネーター、調整、つなぎ役である。このような人材をどう育成していくかが重要である。震災の際、調整役がいなかったため、支援物資をムダに焼却処分してしまった事例もある。人づくりが地域づくりである。</p>
7 災害対策	<p>(1) 震災の教訓を生かした、防災 NPO の取組は良い事例である。</p> <p>(2) 津波復興に目を向けがちであるが、最近、豪雨などもある。台風 10 号がもう少しずれていれば、大船渡地区は大変な被害であった。急傾斜地、土石流対策なども十分行って欲しい。</p> <p>(3) 盛川の氾濫も何処に避難してよいかわからない。自然災害時の情報提供も大切である。</p>
8 医療・保健・福祉・介護	<p>(1) 医療機関の充実も定住に重要な要素である。常勤の医師を確保して欲しい。</p> <p>(2) 人口減少をどうするのか。毎月 100 人が減少する計算で、10 年後には、圏域の人口 6 万が 4 万になる。高齢化も進んできており、「多死社会」が予想される。人を治すためのドクターのほか、より良く死んでいくための整備、例えば理想的な介護のあり方などを検討すべきである。</p>
9 子育て・女性・若者支援	<p>(1) 若者を大切にしたい取組が重要である。若者がいないとまちづくりができない。大学で都会に行った若者が卒業後地元で働く場所がない。</p> <p>(2) 若者が活躍できるような地域にすることが重要であり、そのためには、次の世代を育てていきたい。このような取組により、様々な取組を始める人々がでてくる。</p> <p>(3) 移住して 6 年になるが、まちの規模が小さく、移住定住者や女性にも比較的裁量もってやらせてもらっている。</p> <p>(4) NPO 法人を運営しているが、職員に既婚者や子どもが少ない。我々の下の世代が中々出てこない。若年層の雇用や結婚子育て後の女性の活躍支援を望む。</p> <p>(5) 女性地方議会議員の数が少ない。例えば、大船渡市議会は女性議員が 1 名、陸前高田は 2 名、住田はいない。女性議員枠を設ける、年代別議員枠を設けるなどあってもよい。</p> <p>(6) 家庭が不幸な子どもへの支援をお願いしたい。</p>

10 自治体運営等	<p>(1) 国は国、県は県、市は市という統一性もあると思うが、出来れば県と市が連携をとりながら施策を進めることが重要である。</p> <p>(2) 行政ができないことは、どんどん民間に出すべきであり、官民連携をもっと進めるべきである。</p> <p>(3) 連携は重要であり、国、県にも意見できる連携が必要である。広域振興圏は、余りにも広域である感はあるが、連携の受け皿になり得る。</p>
11 総合計画	<p>(1) どの自治体の総合計画も同様であるが、もう少し特色があってもよいと思う。目指すものは、県民生活の向上といったものが根底にあると思うが、他と比べて何か凄い、これを政策として押すというポイントがあってもよいと思う。</p> <p>(2) 人口減少の中で、政策も取捨選択せざるを得ない。どこを削り、全体を維持していくかが問題であり、この地で食えるような仕組みをつくりあげる必要がある。全国各地 400 自治体で移住定住を呼びかけているが皆同じ感がある。地域の特色を打ち出すことが重要であり、地域が移住者にとってどのような価値があるか訴えることが必要である。</p> <p>(3) 10 年計画は長い。4 年のアクションプランがあって安心したが、これを 1 年ごとに直していくことが重要。人も替わるので、都度見直しが適当である。時代に合っていないければ、直していくことも必要である。</p> <p>(4) 10 年計画のスパンは難しい。いろいろと立派な計画もあり、パブリックコメントなども実施されるが、あまりに立派で良くわからない。計画を読み取ることができず、パブリックコメントなどもどうして良いか分からない。噛み砕いた言葉で、分かり易くしてほしい。</p> <p>(5) 「幸福」については、車輪の片側だけクローズアップされているが、自分のやりたいことだけ追及するような感があり、義務というもう一方の柱をもっと出した方がよい。</p>
12 その他	<p>(1) 芸術文化が盛んな地域であるので、この方面にも力を入れて欲しい。</p> <p>(2) ILCも地域のこれからを考えるポイントである。</p>